

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 古川 隆久

研究課題		日本近現代史像の再構築
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近現代日本の政治及び社会や文化の構造や実態、それら相互の関連性について、一昨年度に公刊した『昭和史』（ちくま新書）で示した全体像に関する見通しをふまえ、政治史を中心に歴史的により深く考察することを通じて、日本近現代史像の再構築をめざす。</p> <p>本年度は、昨年度に引き続き、昭和戦中期の政友会代議士前田米蔵の動向についての研究に関し、史料収集を進め、論文化をめざすとともに、昨年度『歴史学研究』に寄稿した「近代日本における建国神話の社会史」をふまえ、近代日本における建国神話の受容に関する研究を深めるため、文献・史料の収集を進める。その他、日本近現代史像の再検討の手掛かりとするため、外国史や他時代の日本史のほか、隣接分野の最新の研究成果の吸収にもつとめる。</p>
	研究の結果	<p>前田米蔵については論文「日中戦争期の前田米蔵」を執筆し、『史学雑誌』に投稿したところ、論文で128編4号に掲載予定となった。近代日本における建国神話の受容に関しては、来年度の著書執筆を目指して、史料や関連の先行研究の収集と分析を進めた。</p>
	研究の考察・反省	<p>ほぼ予定通りの研究を進めることが出来た。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究発表】 ①「歴史総合、教科書執筆者の立場から」（歴史教育シンポジウム「歴史教育の未来を拓くIV－教科書・授業・入試が携えてすすむ改革」2019年3月21日、日大文理学部図書館3階オーバルホール、主催：2018年度日本大学人文科学研究所総合研究「20世紀の世界諸地域における「教化」と「反発・逸脱」をめぐる多角的視点からの研究」研究代表者古川隆久）、 ②「日本天皇退位が日本社会や日韓関係にもたらす意味」（韓国国立外交院外交安保研究所日本研究センター〔ソウル〕 プランバックセミナー 2019年3月28日）</p> <p>【研究成果物】 論文〔単著〕①「戦後帝国議会・国会における生前退位論議」（『日本歴史』840、2018年5月、39～50頁）、②「日中戦争期の前田米蔵」（『史学雑誌』128編4号掲載予定、頁未定）、③「書評 安田常雄編著『国策紙芝居からみる日本の戦争』（『神奈川大学評論』92号、2019年3月刊行予定に掲載予定、頁数未定）</p>